

執筆者紹介（掲載順）

梁川 英俊 (YANAGAWA Hidetoshi)

鹿児島大学法文学部教授。「国民国家における地方」という視点から、ブルターニュをはじめとするケルト諸地域を研究対象とする。その一方で、東西の音楽文化にも関心を寄せ、ブルターニュ民謡の調査・研究のほか、最近では奄美民謡の海外への紹介にも力を入れている。主要論文に「ブルターニュ民謡から見た奄美民謡」(2006)、「La Bretagne et les minorités japonaises sont-elles comparables?」(2007)、「Des chants d'un village aux chants de toutes les îles – le changement de statut des Shima-uta, chants populaires traditionnels des îles Amami」(2010) など。

フィリップ・ハイワード (Philip HAYWARD)

オーストラリア・サザンクロス大学教授。前任校のマコーリー大学では現代音楽の教授として音楽研究雑誌“Perfect Beat”を編集。国際小島嶼文化会議 (SICRI) を組織し、2004年に鹿児島大学で最初の国際会議を開催する。2006年に国際小島嶼文化研究ジャーナル“Shima”を創刊。オーストラリアの島嶼地域、パプアニューギニア、ヴァヌアツ、小笠原、沖繩、奄美、海南島などで調査研究を行う。著書に“Tide lines: Music, Tourism and Cultural Transition in the Whitsunday Islands” (2001)、「Bounty Chords: Music, Culture and Cultural Heritage on Norfolk and Pitcairn Islands” (2006) など。

ジム・ペイン (Jim PAYNE)

ニューファンドランドの伝統音楽の演奏者・収集家。とくに伝統的な船上作業歌 (sea shanties) の採集および演奏で知られる。歌手としての活動のほか、ギター、アコーディオン、マンドリン、ティン・ホイッスル、ヴァイオリンを演奏し、俳優、作家、ステップダンサーとしても活動する。また作曲、音楽監督、演劇・ドキュメンタリー制作も手がける。カナダ、アメリカ、ヨーロッパ、日本、オーストラリアでコンサートツアー。ラジオ、テレビへの出演も多い。1989年に自主レーベル SingSong を設立。CDに“A Crowd of Bold Sharemen” “Wave Over Wave” “State of the Nation” “Southern Cross” など。

森野 聡子 (MORINO Satoko)

静岡大学情報学部教授。ケルト諸語地域のアイデンティ形成に関する言説を主な研究対象とする一方、ウェールズの民族衣裳や男声合唱の伝統等にも広く関心を寄せる。若い頃は名取を目指して長唄の練習に励み、現在もロックからイタリア・オペラまでジャンルを問わず音楽を愛好。主な著作・翻訳に『ピクチャレスク・ウェールズの創造と変容』（青山社2007）、『ケルト—— 生きている神話』（翻訳・創元社）などがある。

西村 知 (NISHIMURA Satofu)

鹿児島大学法文学部教授。アジア太平洋地域における地方住民の経済生活を土地所有制度や資源利用の観点からフィールドリサーチを手法として研究している。研究以外では、レゲーや西アフリカの伝統的音楽に関心を寄せている。2001年には、ギニア人の伝説的ジンベ奏者のラジ・カマラ師に同行し、ギニア、マリ、セネガルとジンベの源流を探る旅を経験した。主要論文に、Agrarian Law and Life of the People: A Comparative Study of Fiji and the Philippines (2010), Fijian State and Traditional Society (2006) などがある。

徳田 健一郎 (TOKUDA Kenichiro)

鹿児島県三島村在住。日本屈指のジャンベ奏者および指導者。1994年にママディ・ケイタに出会い、以来ケイタやファミドゥ・コナテなど世界的ジャンベ奏者の指導を受ける。1999年に三島村の子供とギニア共和国バランドゥグ村を訪問。以来度々ギニア共和国で修行する。2004年にアジアで唯一のジャンベ中心の音楽学校「みしまジャンベスクール」の初代校長となる。同校はケイタのプロデューサーで世界的に展開するタムタムマンディング (Tama Tam Mandingue) の日本支部。2005年に始まった三島村ジャンベ留学生制度でもジャンベの指導を行う。

金 恵貞 (김혜정 / KIM Hey-Jung)

国立京仁教育大学音楽教育科教授。国立民俗国楽院において学芸研究士。現在は、仁川広域市文化財委員、京畿道文化財委員も務める。民謡、パンソリ、風物グット、雑歌、巫俗音楽などの民俗音楽全般を広く研究対象としている。主な論著に『パンソリ音楽論』『伽倻琴竝唱』『女性民謡の存在様相と伝承原理』『カンガンスルレ』などがある。

李 允先 (이윤선 / LEE Yoon-Sun)

国立木浦大学島嶼文化研究院HK研究教授。鼓舞を故朴秉千氏 (珍島シッキムグット〈鎮魂祓い〉人間文化財) に、民謡を故曹功礼氏 (南道ドゥルノレ〈野歌〉人間文化財) に、パンソリを李任礼 (光州市パンソリ人間文化財) に師事する。光州市立国劇団団員としてパンソリを担当。全州パンソリ鼓法大会において名鼓部の大賞を受賞。初代および第二代の珍島郡立民俗芸術団団長を務める。現在は、民俗音楽に関する研究を行うほか、民俗音楽の企画・演出・振付・公演者としても活動している。

エリック・メヌトー (Eric Menneteau)

12歳のとき、パリから訪れたブルターニュでフェスト＝ノースに出会う。近所に住むカン・ア・ディスカン歌手、モーリス・プルマルフに教えを受け、1999年にブルターニュ中部に移住。多くのコンクールで受賞し、エリック・マルシャンが立ち上げた「クレイス・プレイス・アカデミー」に参加する。エチオピアのアーバン・ミュージックにも傾倒し、「バドゥムス・バンド」(Badume's Band) でボーカルを担当。ブルターニュの伝統歌謡の講習会やワークショップを組織し、後進の指導にも当たる。近年はヤン＝ファンシュ・ケメネールとの共演が多く、その様子はNHK BSプレミアムの番組「Amazing Voice」でも放映された。

訳者紹介

李 徳雨 (LEE Doc-Woo)

神奈川大学大学院博士後期課程

金 秀炯 (KIM Suh-Young)

安東大学大学院博士後期課程



平成23年度鹿児島大学特別経費プロジェクト
「学生一人一人の『人文系共通技能』を伸ばす学士課程の構築」関連事業
シンポジウム「伝統歌謡の継承と地域の創造」報告書

歌は地域を救えるか

伝統歌謡の継承と地域の創造

発行日 2013年3月 初版第1刷発行

編者 梁川英俊

発行 鹿児島大学法文学部人文学科
〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番30号
電話 099-285-7517

制作 株式会社三元社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル1階
電話 03-3814-1867 ファックス 03-3814-0979